

高速道路整備が飛騨白川郷の観光実態に与える影響調査

名城大学大学院 学生会員 ○西本 将典
名城大学大学院 フェロー 松井 寛
名城大学大学院 学生会員 枅川 幸詩
名城大学大学院 学生会員 藤井 貴浩

1. はじめに

岐阜県白川村の合掌造り集落は、昭和 51 年に国選定重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成 7 年にはユネスコ世界遺産条約に基づき国内で 6 番目の世界文化遺産として登録され、年々全国各地から多くの観光客が訪れるようになった。また、平成 11 年 11 月に東海北陸自動車道荘川 IC が開通し、平成 14 年 11 月には白川郷 IC が開通したことにより、白川郷までの交通アクセスが容易となりさらに全国各地から白川郷へ訪れる観光客は増加した。そして今後は平成 19 年頃に白川郷 IC～飛騨清見 IC 間が開通する予定で、これにより東海北陸自動車道が全線開通することになり、白川郷へのさらなる影響が予想され、昨年の調査結果から宿泊客数より日帰り客数の増加が著しく、今後も増加傾向であると予想される。そこで本研究では、高速道路が整備され高速道路の路線拡大により、白川郷へ与える影響の日帰り客数の増加について注目し、まず日帰り客の旅行実態について把握し、観光客の旅行予定と今回と次回の旅行目的、宿泊地について分析を行った。

2. 白川郷の観光客数と日帰り客数の推移

図 1 は白川郷での宿泊客数と日帰り客数の関係を示している。平成 11 年、平成 14 年に東海北陸自動車道荘川 IC、白川郷 IC が開通したことにより年々日帰り客数は増加し、荘川 IC の開通する前の平成 10 年と白川郷 IC の開通後の平成 14 年を比較すると、年間約 50 万人日帰り客が増加しており、これは高速道路整備により旅行時間が短縮されたために日帰り観光圏が拡大したことによると考えられる。しかし、宿泊客数は高速道路が整備される前と後では年間約 6 千人増加した程度にとどまっており、平成 10 年から平成 15 年まで年間平均 6 万人前後と高速道路整備による効果はそれほど大きくなかった。今後東海北陸自動車道が全線開通すると日帰り客数は増加すると考えられるが宿泊客数はあまり増加しないのではないかと考えられる。

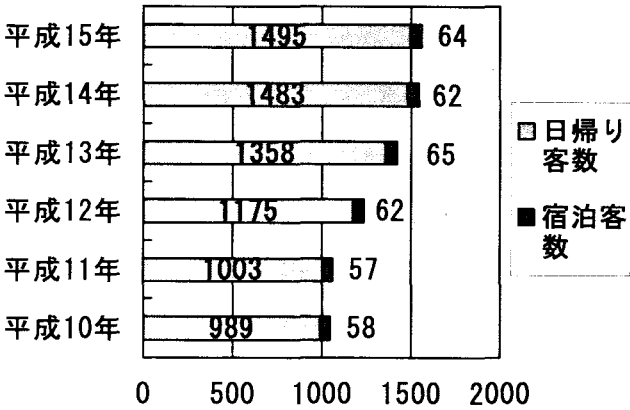


図1 白川郷の観光入込み客数 (単位：千人)

3. 白川郷観光実態に関するアンケート調査

3.1 アンケート調査概要

白川郷を訪れる観光客の旅行実態を把握し全線開通後の観光実態を把握するため、昨年に引き続きせせらぎ公園駐車場で週末の二日間調査を行った。

調査日時： 平成 16 年 11 月 6 日 (土)、7 日 (日)

調査場所： せせらぎ公園駐車場 (普 188 大 38)
(荻町地区 世界文化遺産指定地区)

調査方法： 駐車場内及び路上で観光客を対象にヒアリング形式でアンケートを行う。

3.2 調査項目

表 1 アンケート調査項目

1 白川郷に訪れた回数	13 今回の交通手段
2 前回訪れた時期	14 今回の旅行日程
3 前回の経路	15 今回の宿泊地
4 前回の目的	16 今回の旅行スケジュール
5 前回の目的地	17 次回の訪れる時期
6 前回訪れた観光地	18 次回の目的
7 前回の交通手段	19 次回の目的地
8 前回の旅行日程	20 次回の交通手段
9 前回の宿泊地名	21 次回の周遊予定コース
10 今回の経路	22 住所
11 今回の目的	23 性別
12 今回の目的地	24 年代

3.3 調査結果

アンケートのサンプル数を以下に示す。

11月6日(土)	130 サンプル
11月7日(日)	222 サンプル
合計	352 サンプル

4. アンケート結果

4.1 旅行日程別の比較

表2は昨年と今年の調査結果で旅行日程、今年の調査では東海北陸道が全線開通後に訪れる旅行日程の割合を示す。今年の結果と昨年の結果を比較すると、日帰りは多少増加で宿泊は多少減少であるが、全線開通後の日程と比較すると日帰りは9.7%増加しており、宿泊は1泊2日が3.3%、2泊以上は6.4%減少する結果となった。高速道路が整備されるということで飛騨地方、あるいは北陸地方への交通アクセスが非常に容易となると観光客がイメージを持ったためではないかと考えられ、また今後はさらに日帰り客の増加が予想される。

4.2 次回の旅行目的別の旅行日程と宿泊地の比較

図2、3、4は次回に東海地方に訪れる時の旅行目的別の旅行日程、合掌造りのライトアップ、紅葉を目的としての宿泊地について示す。図2から次回の旅行目的として紅葉が最も多く、次にライトアップが多い結果となり、主に季節では秋、冬に訪れたいという結果となった。旅行日程では、温泉以外はどれも日帰りが宿泊を上回る結果となった。

図3、4からは紅葉を目的として訪れる観光客のうち白川郷で宿泊という観光客は15%であったが、ライトアップを目的とすると白川郷での宿泊は46%という結果となった。図2から東海北陸道が開通することにより日帰り客が増加すると予想されるが、今まで東海北陸道は徐々に整備され白川郷までの交通アクセスが徐々に容易となってきたが、冬に訪れる観光客は少ないものであった。しかし東海北陸道が全線開通により白川郷までの交通アクセスがさらに容易となり、今まで冬に訪れたいと考えていた観光客が今まで以上に白川郷を訪れると予想され、シーズンオフの冬の時期に白川郷の宿泊客数を増加させるのではないかと考えられる。

5. まとめ・今後の課題

本稿では昨年の調査結果から高速道路整備が日帰り客数に与える影響が大きいことに注目し、まず日

表2 旅行日程別の比較

	昨年の日程	今回の日程	次回の日程
日帰り	45.1%	48.6%	58.3%
1泊2日	43.7%	42.0%	38.7%
2泊3日	9.5%	9.1%	3.0%
3泊4日以上	1.7%	0.3%	0%
サンプル数	294	352	266

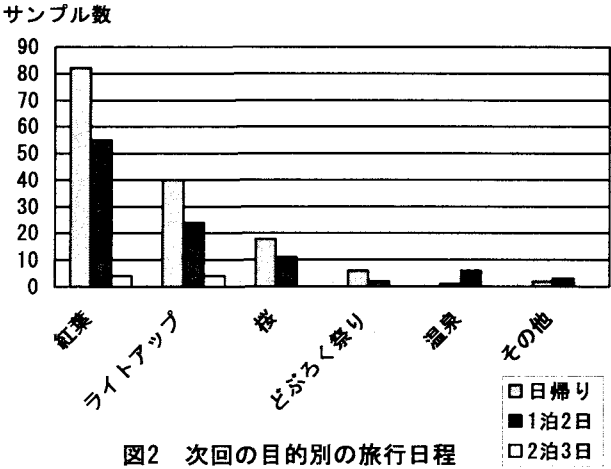


図2 次回の目的別の旅行日程

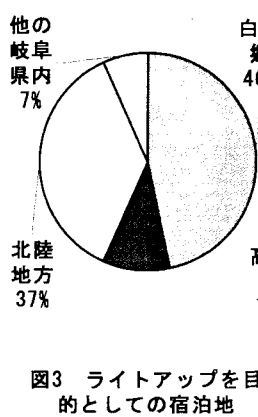


図3 ライトアップを目的としての宿泊地

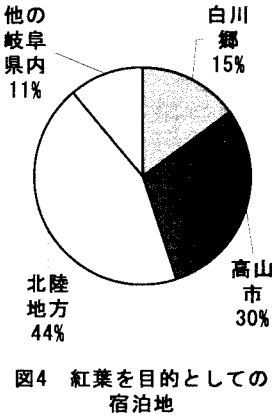


図4 紅葉を目的としての宿泊地

帰り客の旅行形態について把握し観光客の旅行日程と今回と次回の旅行目的、次回の宿泊地の関係について比較を行った。結果として、全通後はまた秋に白川郷に訪れたいという観光客も多かったが、冬に訪れたいという観光客も多く、ライトアップを目的とし白川郷で宿泊したいという観光客が多い結果を得た。今後はさらに日帰り客と宿泊客の旅行スケジュールを分析することにより前回、今回、今後の旅行日程、旅行の目的、周遊ルートの変化について分析を行う。

[参考文献]白川村役場ホームページ観光課 商工観光課情報及び観光統計、交通量調査参照